

Q11 瀬戸石ダムが洪水被害を助長したのではないのでしょうか。そうであれば、瀬戸石ダムは撤去した方がいいのではないのでしょうか？

- 令和2年7月豪雨の検証にあたり、瀬戸石ダム周辺に限らず球磨川全川にわたり洪水のピーク水位がどのあたりまできたかを現地で調べる痕跡調査を行うとともに、不等流計算により洪水時のピーク水位の再現計算を行いました。
- ピーク水位の再現計算においては、洪水の痕跡など整理・把握した基礎情報と照らし合わせることで、現象の再現性について確認を行っており、客観的な事実に基づいて科学的に検証を行っています。
- その結果、令和2年7月豪雨による被害は、瀬戸石ダムの約20 km下流から、約60 kmにもわたる区間において、洪水時のピーク水位が計画高水位を超え、そのほとんどの区間で計画堤防高を超えるなど、計画を大きく超える規模の洪水が発生したことが原因であったと確認しています。
- 橋梁や堰などの河川を横断する生活や産業に不可欠な許可工作物については、それらによる治水上の影響を、当該許可工作物の上下流区間だけでなく河川全体で確認し、河川整備基本方針や河川整備計画といった治水計画を検討・策定しています。その中で、瀬戸石ダムについても治水計画の目標流量を安全に流せることを確認しています。
- なお、瀬戸石ダムの発電事業継続の判断は事業者である電源開発株式会社で決定されることになります。